

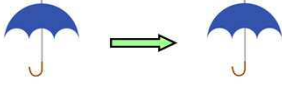

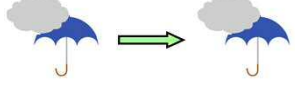



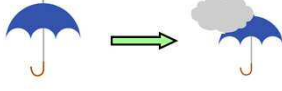

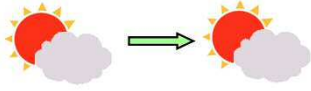










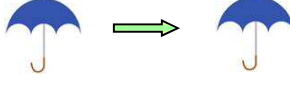













【産業動向概要】









































産業全体 	<p>11月を中心とした県内経済は、輸出が前年比プラスが継続し、生産活動も自動車関連を中心に回復の動きが続いている。一方で、個人消費は低調に推移している。県内経済は持ち直しつつあるものの、海外経済の不確実性の高まりや、円高などから製造業を中心に先行き不透明感が広がっている。</p>		
観光・旅館業 			<p>秋季（9月～11月）を中心とする伊豆地区の宿泊客数は、全体として前年並みから前年比減で推移。年末年始の予約状況はおおむね前年並みとなっている。</p>
紙類 			<p>県内メーカーが生産する再生紙物トイレトペーパーの需要は低調、価格は横ばい基調ながら弱含み。メーカー各社の価格修正は不発に終わり、先安感の懸念が出ている。段ボール原紙はメーカーによる製品価格引上げが概ね達成される見込み。</p>
	家庭紙 	板紙 	
水産業 			<p>静岡県主要漁港である焼津港の水揚量は、マグロ類は減少したが、カツオ類の増加により、全体では前年比2.6%増、沼津港はサバ類が減少したもののイワシ類が増加し、同13.9%増となった。一方魚価は、マグロ類、カツオ類、サバ類ともに単価を上げ、魚種全体の平均単価は前年同期比10.2%上昇した。</p>
一般機械（主） 			<p>金属工作機械は8月に17ヵ月ぶりにマイナスに転じ、以降好調さに陰りが見え始めている。金型もプラス幅が縮小、円高により主要ユーザーである自動車業界が先行き警戒感を強めていることから、不透明感が出てきている。</p>
	金属工作機械 	金型 	
木材 			<p>県内新設住宅着工は増加に転じたが、木造住宅は住宅エコポイント制度等の終了により減少。製材品の県内生産量は減少傾向、製材品価格は横ばいから弱含みで推移する見通し。</p>
缶詰 			<p>水産缶は主力のツナ缶が前年同期比27.7%増と引続き大幅に増加、被災地メーカーの生産代替もあり生産は堅調。農畜産缶全体の生産量は前年同期比で減少に転じた。飲料缶類は記録的猛暑だった昨年の反動により、6四半期ぶりに前年実績を下回って減少に転じた。</p>
	水産缶詰 	農畜産缶 	
	飲料缶類 		
楽器 			<p>主力のピアノは、生産台数は前期実績を上回ったが、販売台数は輸出の減少により同実績を若干下回った。電気・電子ピアノの生産台数は東日本大震災からの影響を脱し、11月は1年ぶりに前年実績を上回った。電子オルガン、電子キーボードは引き続き落込みが激しい。</p>
	ピアノ 	電子楽器類 	

輸 送 用 機 器 			遠州地域の二輪車生産台数は前年を下回って推移。また自動車部品生産金額（県内）は7月単月でプラスに転じ、10月には2桁の伸びを示したものの、県内部品メーカーにはタイの洪水被害と円高により先行き不透明感が広がっている。
	二輪車 	自動車 部品 	

				
明　　る　　い	やや明るい	停　　滞	やや不振	不　　振

《産業別天気マークの推移》

 明るい
  やや明るい
  停滞
  やや不振
  不振

調査対象時期 (公表時期)	09/10 (09/12)	10/1 (10/3)	10/4 (10/6)	10/7 (10/9)	10/10 (10/12)	11/1 (11/3)	11/4 (11/7)	11/8 (11/10)	11/11 (12/1)
概況 		→		→					
観光・旅館業 		→		→		→			
紙類 		→					→		
水産 		→							
一般機械(主要) 		→		→			→		
木材 		→							
缶詰 		→				→			
楽器 		→		→		→			→
輸送用機器 		→		→		→			→